

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

角田市長 黒須 貫

市町村名 (市町村コード)	角田市 (208)
地域名 (地域内農業集落名)	北郷 (君萱・神次郎・北江尻・南江尻・花島・北岡・南岡・岡・梁瀬)
協議の結果を取りまとめた年月日	令和6年2月19日 (第1回)

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

地域の農業経営資源の受け手として期待される担い手農家の高齢化が進行しており、農業経営を継承し、発展させるための支援を行っていく必要がある。農業従事者の高齢化や担い手農家の減少等により、農作業の省力化や効率化が求められているほか、これまで家族の継承の中で培われてきた農業技術を、第三者継承を含め新規就農者へ継続的に継承していける仕組みが必要となっている。また、米価の下落や消費者の低価格志向などの社会情勢の中において、なりわいとして農業を営んでいくことが難しくなりつつある。

(2) 地域における農業の将来の在り方

- ・地域の主要作物である米・大豆を中心に、麦、新規需要米など食料安全保障の向上に寄与する作物、農家の収入向上に資する高収益作物の生産を地域農業の中心と位置付ける。
- ・地域農業を持続可能な体制とし、これを維持するため、家族経営を前提とした営農体制から、集落営農組織・法人などの経営体への集約・転換を図り、安定した雇用体系を作り、地域内外からの人材の流入を可能にする。
- ・現在の地権者と耕作者間の個人的な農地の貸し借りを、中間管理機構に集約し、地域全体で効率的な農地利用ができる体制を作る。
- ・将来的な担い手の減少を鑑み、農地の団地化、集約化を進め、ドローン、自律走行トラクター、遠隔水門等IoT技術の活用を推進し農業生産の省力化・低コスト化を図る。
- ・食料生産体制の強靱化のため、国内産肥料、バイオ燃料、再生可能エネルギーの活用など有事に強い農業体制を目指す。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	875 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	667 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	- ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

農振農用地をこれに位置付ける

注:区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

